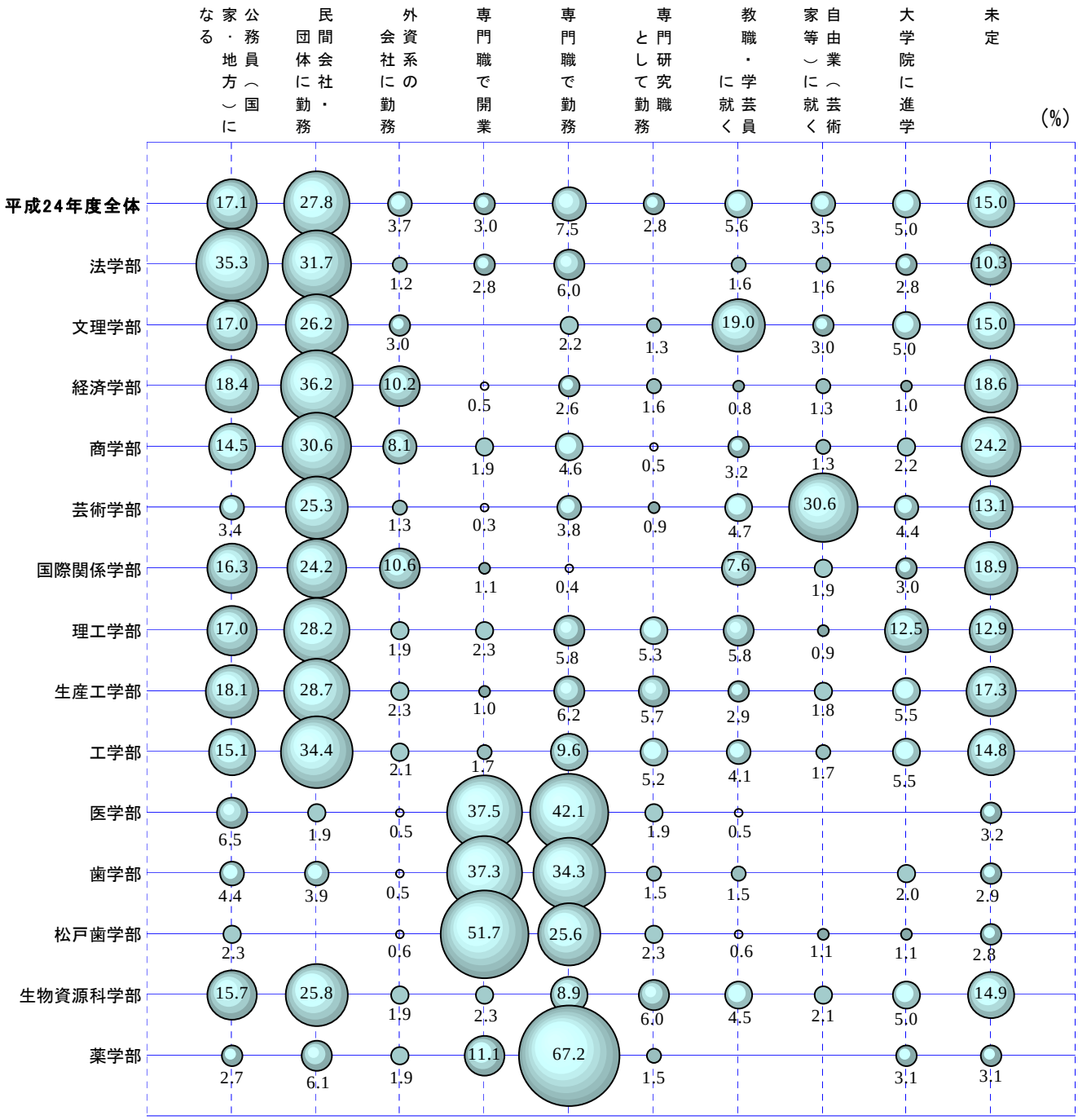
1.希望している進路（第一希望）

最も希望している進路は，全体では「民間会社・団体に勤務」，次いで「公務員」。
理工学部で「公務員」から「民間」へシフト傾向。医学部･松戸歯学部で「開業」志向が強まる。

卒業後最も希望している進路を全体で見ると，「民間会社・団体に勤務」が27.8％で最も高く，「公務員」が17.1％で続いています。学部別に見ると，経済学部・工学部で「民間」，法学部で「公務員」がそれぞれ35％前後，薬学部では「専門職で勤務」が67.2％，芸術学部では「自由業」が30.6％と高い点が目立っています。３年前と比較すると，理工学部では「公務員」から「民間」にシフトする傾向が最も鮮明に表れています（前者が5.4ﾎﾟｲﾝﾄ減，後者が6.0ﾎﾟｲﾝﾄ増）。また，医学部では「開業」が10.4ﾎﾟｲﾝﾄ増，「専門職で勤務」が10.3ﾎﾟｲﾝﾄ減と，開業志向が急速に高まっています。松戸歯学部でも同様の傾向が見られます（開業が14.7ﾎﾟｲﾝﾄ増，勤務が4.6ﾎﾟｲﾝﾄ減）。薬学部では「専門職で勤務」が9.8ﾎﾟｲﾝﾄ増，「公務員」が4.5ﾎﾟｲﾝﾄ減と大きな変化が見られます。



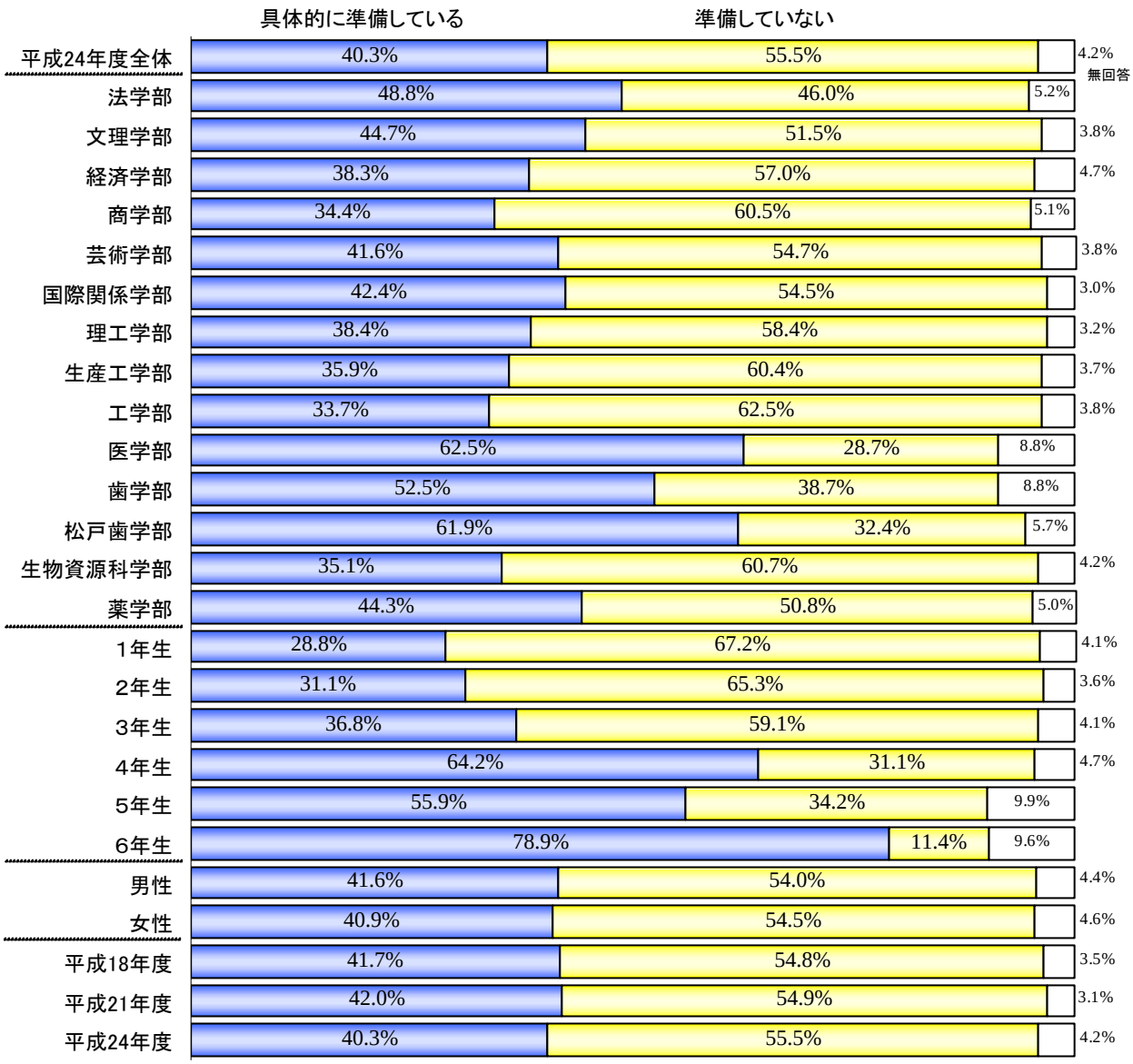
2.希望している進路について具体的な準備の有無

希望している進路について「具体的な準備」をしている学生は全体の４割。
学部により差。卒業年度に高まる傾向，男女間に有意差なし。

６年前から新たな調査項目として加えられた「希望している進路について具体的な準備の有無」を全体で見ると，「具体的に準備している」学生は40.3％となっており，「準備していない」（55.5％）を15.2ﾎﾟｲﾝﾄ下回っています（無回答4.2％）。

学部別に見ると，「具体的に準備している」学生は医学部で最も高く(62.5％)，次いで松戸歯学部（61.9％），歯学部（52.5％)と，医・歯学部系で高くなっています。逆に「準備していない」学生の比率は工学部・生物資源科学部・商学部・生産工学部で60％強と高くなっています。

「具体的に準備をしている」学生を学年別に見ると，卒業年次の４年生で64.2％，６年生で78.9％となっています。性別による有意差は見られませんでした。３年前と比較すると1.7ﾎﾟｲﾝﾄ減と，若干減少しています。

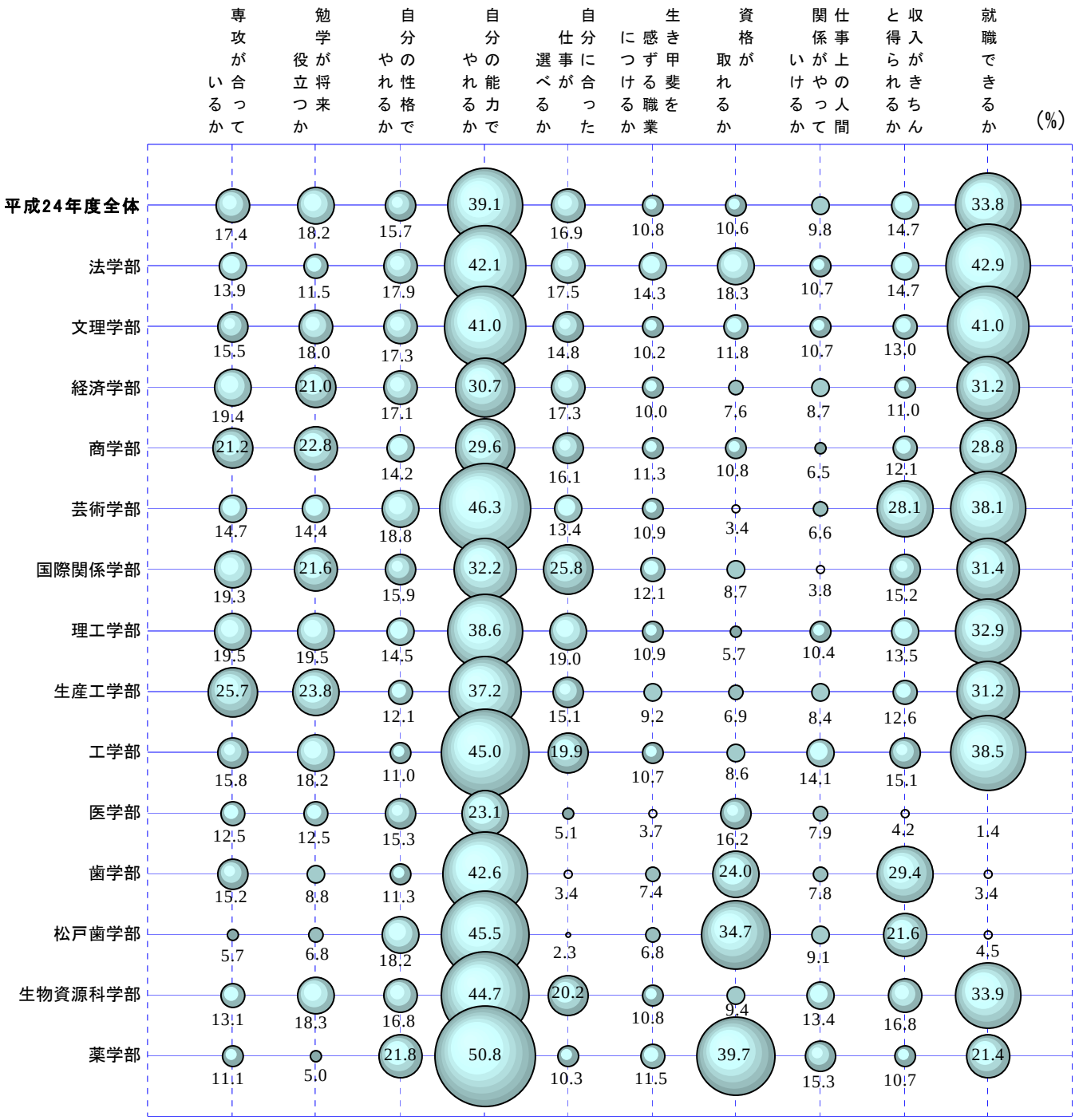


3.将来の不安

学生が感じている将来の不安は「自分の能力」が39.1％でトップ，「就職」が２番目。
「能力」に対する不安は薬学部･芸術学部･松戸歯学部･工学部･生物資源科学部で強い傾向。

学生が感じている将来の不安を全体で見ると，「自分の能力でやれるか」が39.1％で最も高く，「就職できるか」が33.8％で続いています。

学部別に見ると「能力」が法学部・経済学部を除く12学部で最も高くなっており，薬学部・芸術学部・松戸歯学部・工学部・生物資源科学部で約45％以上と高い点が目立っています。「就職できるか」は文理学部で「能力」と同率，法学部・経済学部でトップ，工学部や芸術学部でも40％弱となっています。２番目に高い不安として，歯学部では「収入がきちんと得られるか」，松戸歯学部と薬学部では「資格が取れるか」が挙がっています。

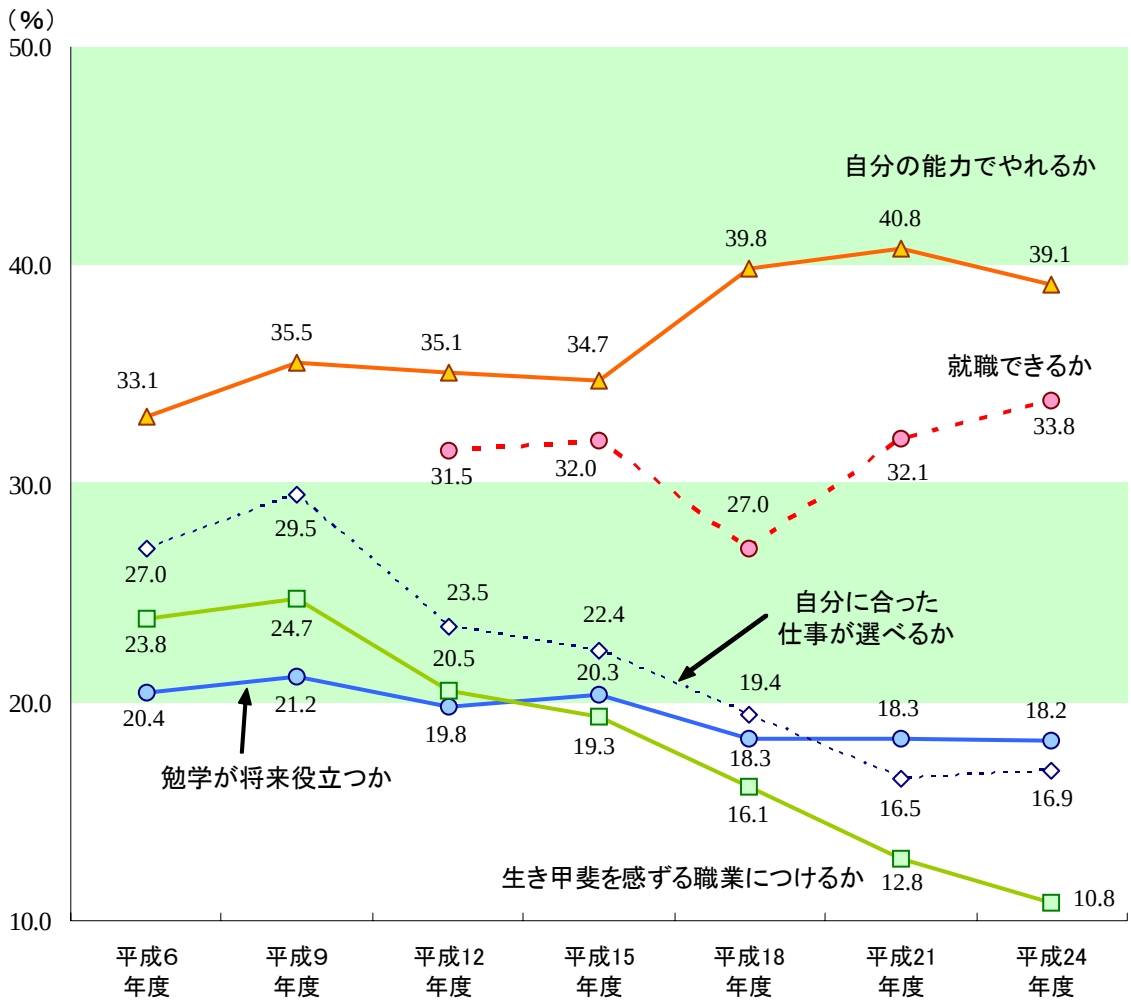


4.将来の不安の経年変化

この６年間で「就職」に対する不安が増加。理工系学部で増加傾向大。
就職氷河期後も，就職に関する社会情勢が学生のマインドに影響か。

学生が感じている将来の不安を平成６年度から経年変化で見ると，「自分の能力でやっていけるか」という不安が毎回トップとなっています。この「能力」への不安は，平成15年度からの６年間で6.1ﾎﾟｲﾝﾄ増加しましたが，３年前から1.7ﾎﾟｲﾝﾄ減とやや減少しました。対照的に「就職できるか」という不安は一度平成18年度に減少しましたが，それ以降は漸増傾向にあり，直近の６年間で6.8ﾎﾟｲﾝﾄ増加しています。学生にとって「能力」「就職」が将来の２大不安事項となっていることが分かります。一方「生き甲斐を感ずる職業につけるか」という不安は，平成９年度以降漸減傾向が続いています。仕事に生き甲斐を求めるよりも，まず就職できるか・社会に出て自分の能力で大丈夫かといった現実志向が強まっていると考えられます。いわゆる就職氷河期以後も内定取り消しや大卒の就職内定率の減少，平成23年３月11日に発生した東日本大震災の影響で新卒者の就職が一段と困難になっていることなどが学生のマインドに影響を及ぼしているものと思われます。

学部別に見ると，「自分の能力でやれるか」という不安は医学部で３年前より13.0ﾎﾟｲﾝﾄ減，国際関係学部で8.6ﾎﾟｲﾝﾄ減，「就職できるか」は理工学部・生産工学部・工学部で６年前より８～14ﾎﾟｲﾝﾄ増，「自分にあった仕事が選べるか」は文理学部で平成９年度から減少傾向が続き，15年間で23.3ﾎﾟｲﾝﾄ減と変化が目立っています。

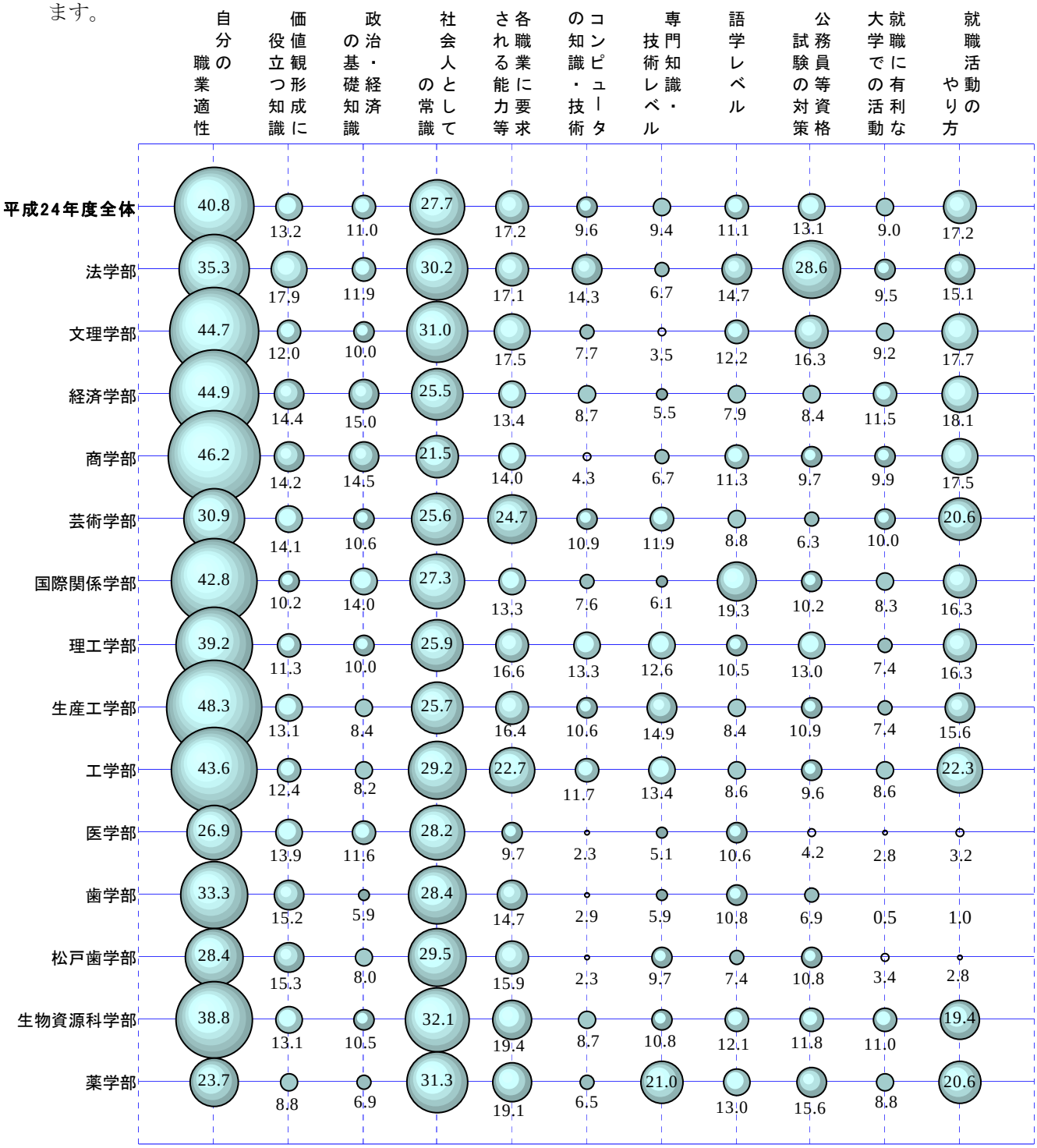


5.進路に関して得たい情報・知識

卒業後の進路に関して得たい情報・知識は「自分の職業適性」が40.8%でトップ。
「社会人としての常識」「職業に要求される能力」「就職活動のやり方」が続く。

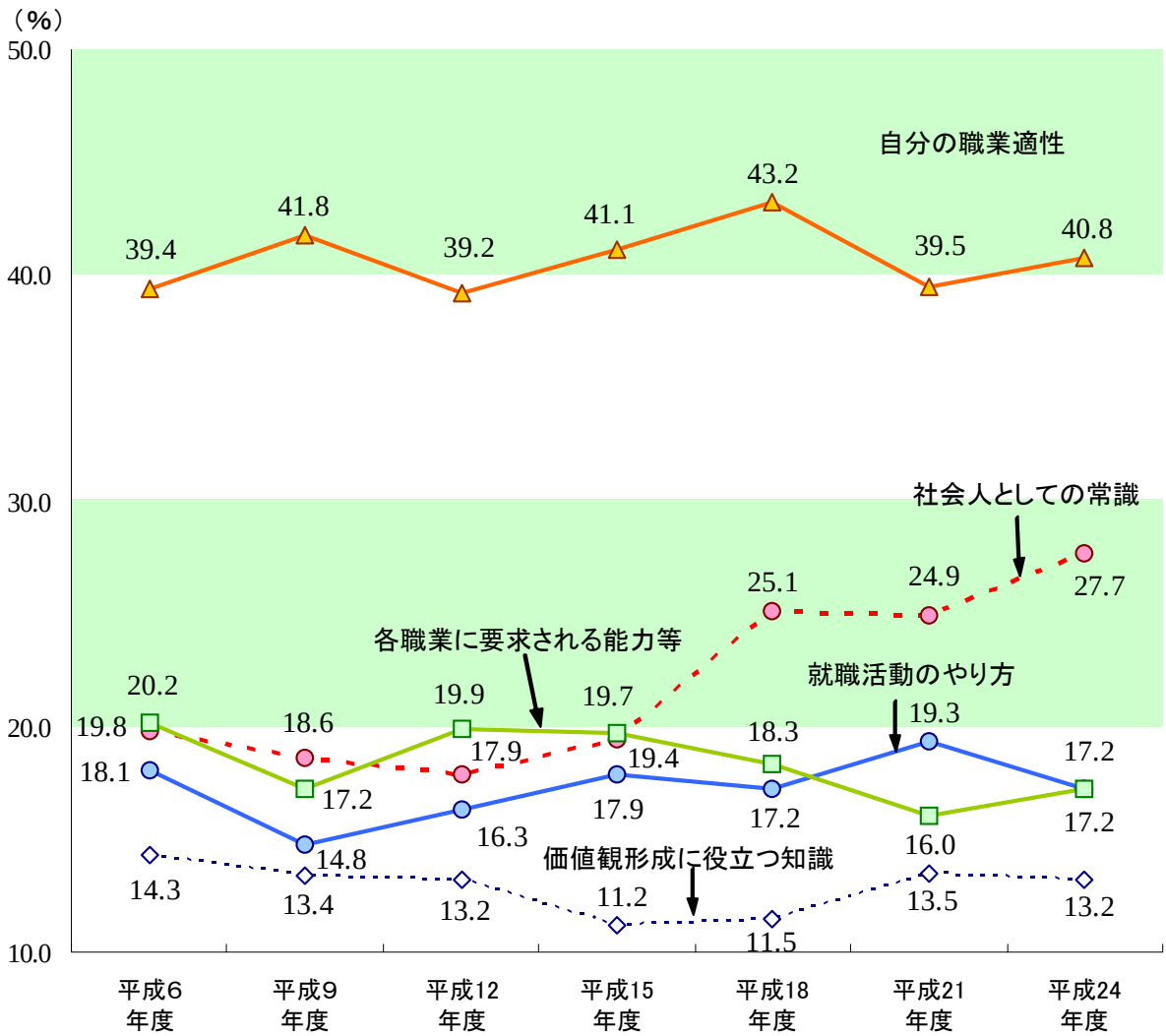
卒業後の進路に関して現時点でもっておきたい情報や知識を全体で見ると，「自分の職業適性」が40.8%で最も高くなっています。次いで「社会人としての常識」(27.7%)，「各職業に要求される能力等」「就職活動のやり方」（各17.2%）の順で続いています。

学部別に見ると，生産工学部・商学部・経済学部・文理学部などで「自分の職業適性」，芸術学部で「各職業に要求される能力等」，薬学部で「専門知識・技術レベル」，法学部で「公務員等資格試験の対策」，工学部で「就職活動のやり方」が，他の学部と比較して高くなっている点が目立っています。



6. 進路に関して得たい情報･知識の経年変化

卒業後の進路に関して得たい情報・知識は「自分の職業適性」が引き続きトップ。
「社会人としての常識」についての情報・知識を得たい学生の増加傾向が目立つ。

この項目が調査に含まれた平成６年度からの経年変化を見ると，「自分の職業適性」が毎回トップとなっており，40％前後で推移しています。３年前と比べると1.3ﾎﾟｲﾝﾄ増加しました。「社会人としての常識」は，平成12年度の17.9％から漸増傾向にあり平成24年度までの12年間で9.8ﾎﾟｲﾝﾄ増となっています（直近の３年間では2.8ﾎﾟｲﾝﾄ増）。「各職業に要求される能力等」は平成12年度の19.9％から漸減傾向にありましたが，直近の３年間では1.2ﾎﾟｲﾝﾄ増に転換しています。一方「就職活動のやり方」は平成９年度から漸増傾向にありましたが，３年前より2.1ﾎﾟｲﾝﾄ減少に転換し，「各職業に要求される能力等」と同水準となっています。

学部別に直近の３年間の変化を見ると，「自分の職業適性」は商学部で10.3ﾎﾟｲﾝﾄ増，国際関係学部と生産工学部で６ﾎﾟｲﾝﾄ台の増，「社会人としての常識」は生物資源科学部・工学部・医学部で６ﾎﾟｲﾝﾄ台の増と目立っています。